

慶応義塾高校招待会議2019 生徒会参加報告書

日時：7月15日(月) 9:30~17:35

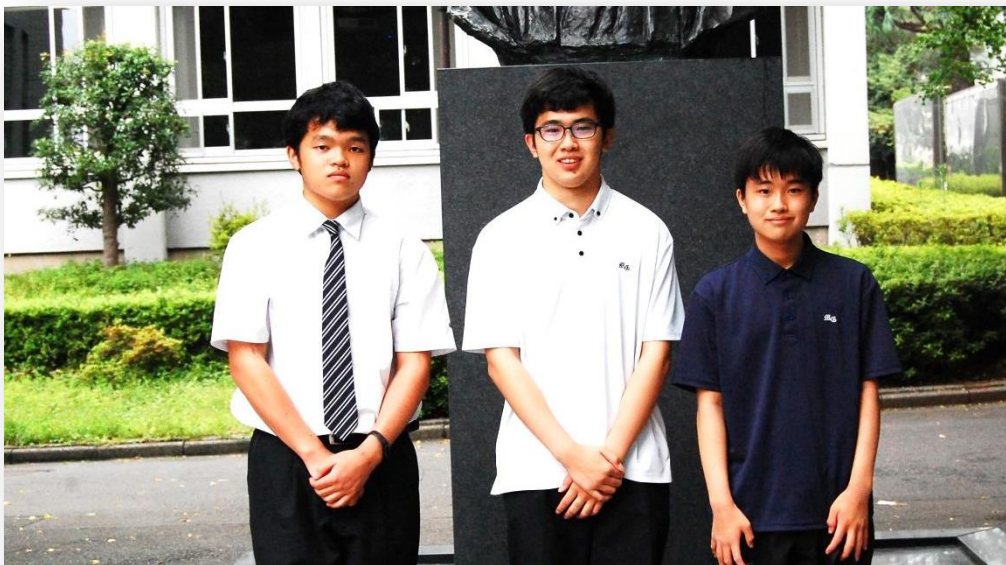
場所：慶應義塾高等学校

参加者：3年 川原優太 1年 野村晃輝 堀 文仁(生徒会からの参加者)

報告者：3年 川原優太 1年 野村晃輝 堀 文仁

補筆 武田

校正 荒川 伊藤



招待会議 内容

- 1.開会式
- 2.基調講演
- 3.分散後 自由討論
- 4.意見交換会
- 5.閉会式
- 6.交流会

◆ 慶応義塾招待会議の参加の理由と目的

- ①. 他校との交流を深めつつ、生徒会役員としての研修を兼ねる
- ②. 会議の進め方、まとめ方、交流イベントの運営を学ぶ
- ③. 同世代の考え方、感じ方に触れ自分たちのアイデンティティ形成の一助とする

◆ 活動内容

今年の討論は「保守 VS 革新～2025 を見つめる～」というテーマで行われ、日本の様々な事柄が将来どのように変化するかを考察しました。近い将来である2025年には、あと6年ですが、私たちに関係する教育制度の改革や、受験制度の改革が直ぐ間近に迫っています。そこで各分散会で保守と革新の2派に分れ、保守派は今までの物事の在り方や考え方の利点や上手くいっているところを確認した上で、今後どうそれを守りつつ、変化させるべきかを議論しました。一方で革新派は、現状の在り方を踏まえた上で、新たな動きに合わせて変わる社会の有りようを予測しつつ、その問題点について議論しました。

討論終了後、両派を交えて、互いがどのような結論を導き出したかを発表し合いました。

◆ 感想

私は今回初めて、この招待会議に参加させて頂きました。各テーマを拝見させて頂きましたが、どのテーマも将来的に役に立つことがあると思いました。私は「スマホの利用価値を上げよう」というテーマの分散会で革新派に参加しました。最初は、普通に考えれば導き出される内容と考えていましたが、討論を進めていくうちに、私が社会人になった頃、次世代の子供たちが直面するであろう問題点や疑問点がいくつもある事に気が付きました。そしてこのように想定しつつ、議論を交わすことがいかに重要かを理解しました。今回の招待会議をきっかけに私たちのスマホの利用ルールの在り方や、将来、想定されるトラブルへの対処をより真剣に考えて行こうと思いました。

記：生徒会1年 堀 文仁

3年連続の参加です。今回は各テーマに対して保守と革新に分れ、討論する形式でした。私の所属した「教育の未来」について考えるグループでは、今の教育のやり方やシステムについて考え、教育のICT化を行うにあたってのメリット、デメリットを出し合いました。そして現在、各学校で行われているICT実践の現状を共有できるよう意見交換をし、2025年に向けての教育のICT化について考えを深めました。その後の意見交換会で保守派と革新派で意見をぶつけ合い、最終的な意見をまとめあげました。

閉会式では、本校の取り組みである「よこすか・ゆめ・みらい」についての宣伝をし、交流会でチラシを配らせて頂きました。例年と異なることが多々あり新鮮な気持ちで会に参加出来ました。

私は3年間参加させて頂き、多くの人と意見を交わし、それぞれ十人十色の考え方に触れることが出来ました。それだけでも、この会議に参加した甲斐があります。ありがとうございました。

記：生徒会3年 川原 優太

今回は「保守VS革新」ということで2派に分れて討論する形式でした。私は所属した第8グループの「命と論理」というテーマの中で、保守派に参加しました。議論の「病気で何を連想するか」では、「ハンセン病問題」などでおきた差別・隔離について考えました。しかし、いかに自分自身が自分の固定概念の中でしか考えていなかったのかを討論をしていくうちに気付かせて頂きました。固定観念から離れ、様々な考え方を吸収できたと思います。さらに「AI等の技術革新」によって、ロボット化された未来において、起り得る事故を考えたとき、「誰が責任を負うのか」についての議論では、自分の意見をはっきり出して分散会のメンバーと話せたと思います。最後に今回のゲストとして参加された眼科医で OUI inc. というベンチャー企業(主に医療現場での問題点解決のため新しい医療機器を開発する企業)の共同設立者である清水映輔さん、明田直彦さん、矢津啓之さんのお話があり、有意義な時間過ごすことができたと考えています。

記：生徒会1年 野村 晃暉